

# プラ・ビダ<sup>1</sup>

コスタリカ国草の根技術協力

「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業活動報告」

No. 1

2016.3.19

～第一報事業開始！～

NPO 法人イフパット 研究員 小林沙羅  
(現地調整員/生活改善ファシリテーター)

2016年3月より、「生活改善アプローチによる農村開発モデル事業」がコスタリカのオロティナ市で開始されました。果物の生産で有名なオロティナ市の大部分を占める農村部は、政府主導で土地が分配された入植地であり、コスタリカ国内でも貧困度が高い地域と言われています。同市では日本で研修を受けた市長始め、戦後日本の生活改善アプローチを適用した農村開発を進めようと、市役所、農村開発省、保健省が参加する組織を超えた横断的なファシリテーターチームを立ち上げました。入植地における住民の生活の質向上のために、プロジェクトではこのファシリテーターチームの育成、住民による課題解決の支援、コスタリカの他地域との経験交換を主な活動としています。

第一回目のファシリテーターチームとのミーティングでは、入植地の中でも比較的土地があり、優先度が高いサンタリタ村とセバディージャ村が対象集落として選ばれました。まずは各家庭を訪問し、地域を知ることから始めて合意し、早速サンタリタ村で初めての会合を開きました。会合には13名の村の女性が集まり、日本の生活改善経験を説明するビデオを見た後、自分たちにとって生活を良くすることはどういうことか？生活改善活動にあたって我が家では何を改善したいか？というテーマでグループに分かれ話し合いました。女性達は積極的に、戦後日本の貧しい状況の中生活を改善していった女性達の姿に刺激を受け、「自分たちも子どもたちや家族のために前進したい」という声が上がっていました。改善したいこととしては「家族関係や近所づきあい」、「家族の健康や栄養状態」、「仕事を得て家計を助けたい」「もっと新しいことを学びたい」などが挙がりました。

当プロジェクト実施の背景には、日本で生活改善アプローチを学んだ帰国研修員の働きかけもあり、コスタリカの農牧省が農家の生産向上だけではなく「生活の質向上」を政策

<sup>1</sup> コスタリカ人が挨拶の時などに良く言う言葉、直訳では「純粋な人生」、全てがうまくいっている、問題ないなどの意味で使われます。

として進めていることが挙げられます。オロティナ市でも入植地として今まで基礎インフラの建設など政府を始め様々な援助が入ってきましたが、依存精神が高まる一方生活の質が向上したとは言えない状況です。生活改善アプローチが目指す住民自身の課題解決能力の向上のために何ができるかファシリテーターチームのメンバーと、対象集落の女性達と地道に話し合いを続けていきます。



対象集落の様子（オロティナ市中心部から 7km, セバディージャ村）



第一回目集落での会合（村の女性達と生活改善について話し合う）